



積もった雪

人権・同和教育課 佐伯孝史

コロナウィルスの猛威が世界を覆い尽くし、先の見えない日々が続いています。日増しに温かさを増す日々には希望を見だし、やり場のない矛先をおたがいに向けることなく、平穏な日々を少しずつ取り戻していきたいと思います。先月の学校通信（教務課）に寄せて、金子みすゞさんの詩を紹介します。

積もった雪

金子みすゞ

上の雪

さむかるな。

つめたい月がさしていて。

下の雪

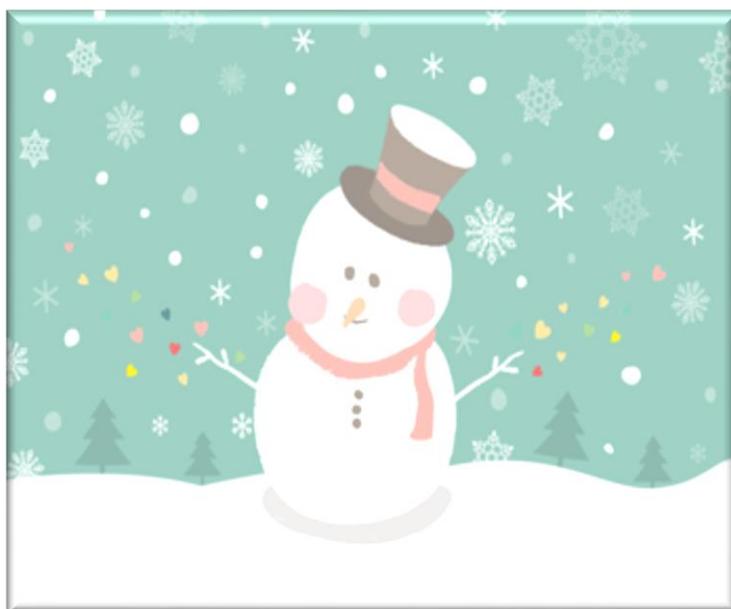
重かるな。

何百人ものせていて。

中の雪

さみしかるな。

空も地面もみえないで。



《解説》

自分を雪の外に置いては、中の雪に気づくことはありません。中の雪のさみしさは、なんなのでしょうか。どこまでが上で、どこまでが下かを考えると、中の雪が一番多いことに気づきます。社会における中の雪とは、私たちごく普通の人でしょう。普通の人が一番多いと言うことは、私たちをお創りになった宇宙、あるいはだれか尊いお方は、うれしいことに、私たち普通の方を一番愛してくださっているからでしょう。

しかし、悲しいことに、私たちはこのことを含めて、人類としてこの世に誕生したころには自覚していた、ごく自然なことや大切なことを、みんな忘れてしまったのです。そして、その反面、知識を求め、物を求め、本来はこれらによって、さらなる心の豊かさへ向かうはずだったのに、結果として、自然なことを古いこととして切り捨ててきたのです。このことに気がつかないということが、中の雪の根元的なさみしさでしょう。自然なこと、大切なことを思いださせてくれるのが、上の雪や下の雪の役割りです。一番多い中の雪である私たちが良質にならないかぎり、世界は倖せにはなりません。

ところで、中の雪がなかったらどうでしょうか。上の雪の見たことを、下の雪に話したら、それで終わり。下の雪の話も上に伝えたらそれで終わり。どちらも感動は一回です。中の雪があるおかげで、上の雪の話を、中の雪に伝え、中の雪はさらに、下の雪に伝えることができるのです。下の雪の話も同じです。中の雪がいることで、喜びは二倍に、悲しみは半分になるのです。また、上の雪と下の雪は最初にとけ、中の雪は残りますが、上と下の雪がとけたあとは、中の雪の中でも、上の雪と下の雪ができ、そして最後には上も下も中もひとつになって、とけていくのです。

このことに気づいたら、私たち中の雪は、なんとうれしい存在なのでしょうか。

令和 2 年度 6 月行事予定

日	曜	行 事
1	月	平常授業 放課後：自転車点検
2	火	尿検査一次
3	水	↑相互参観授業（～6/5） 語の日 尿検査一次（予備日）
4	木	
5	金	↓ 人権・同和教育ホームルーム活動（全学年）
6	土	
7	日	
8	月	45分授業 交通マナーアップ講習 校納金引落
9	火	心電図
10	水	身だしなみ指導
11	木	
12	金	内科検診（2年）
13	土	土曜課外①（1～3年）
14	日	
15	月	内科検診（3年）
16	火	内科検診（1年）
17	水	各種委員会 尿検査二次 小論文トレーニング（2年）
18	木	
19	金	第1回漢字能力検定 就職模試①（3年）
20	土	↑進研マーク模試（3年） 土曜課外②（1・2年）
21	日	↓ 第140回珠算・電卓実務検定試験
22	月	
23	火	
24	水	3年生卒業アルバム撮影（部活動）予備日 小論文模試（2年）
25	木	3年生卒業アルバム撮影（クラス，グループ）予備日
26	金	3年生卒業アルバム撮影（クラス，グループ）予備日
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	

＜生徒会スローガン 2020＞

memories かけがえのない思い出を胸に刻もう